

私は普段から車いすに乗って生活している。

そんな私が地域の中学校に通いみんなと同じように学校生活を送るには、エレベーターやスロープが欠かせない。友達と出かける時も、エレベーターやスロープ、車いす用トイレがあるおかげで、自分だけ誘われないなんてこともなく、一緒に買い物に出かけたり、お祭りに行ったりすることができている。

私にとって非常に大切なスロープやエレベーターなどを設置する費用が税金から出ていると知ったのは、小学校六年生の時の租税教室でのことだ。そのことを知った時の衝撃は、今でも忘れられない。

「税金をしっかりと納めてくれている人がいるおかげで障害を持っている人が生活しやすくなっているのだから、大人になって税金を納める立場になったらしっかりと税金を納めなくてははいけないよ。」

租税教室の後、お父さんに言われたこの言葉を忘れることはないだろう。しかし、その時は大人になったらしっかりと税金を納めないといけないなと思ったぐらいで、税金のことを詳しく調べようとはしなかった。

今回この作文を書くにあたり、初めて税金のことを詳しく調べてみた。私が一番興味を持ったのは、その人の収入に応じて納めなければならない税金の額が違うという税金の仕組みだ。この仕組みがあることで、収入が少ない人が生活できなくなるほどの税を納めなくても良くなり、もし生活に困窮しても税金から支払われる補助金を受け取ることができる。反対に、収入が多い人は多額の税を納めなければならないため、収入が多い人と少ない人の格差を少しでも少なくすることができる。

「税金は、人と人の間にある段差をなくすスロープのようなものなのだ。」私は税金のことについて調べてみて、こう考えた。税金を納める仕組みによって収入が多い人と少ない人との格差が小さくなり、税金によって設置されるエレベーターやスロープ、車いす用トイレなどによって私のような障害を持っている人が障害を持っていない人と差が生まれることなく同じように生活することができる。しかし、数人の人が税金を納めるだけでは必要な数のスロープを作ることはできないだろう。私達学生も買い物をしたら消費税を支払い、国民全員が税金をしっかりと納めることで、初めて障害の有無や収入の差から生まれる段差を解消し、それらの人が同じように笑顔で生活することができるようにするためのスロープとなるのではないだろうか。私が大人になって税金を納める立場になった時は、スロープ作りに関わる一人の人間として誇りを持って税金を納めていきたい。